

CEReSニュースレター

国立大学法人千葉大学環境リモートセンシング研究センターニュースレター
2006年1月号

第11回 CEReS 国際リモートセンシングシンポジウム「The 11th CEReS International Symposium on Remote Sensing with special theme on "Maximization of the use of satellite data for understanding the earth environment"」を開催しました。



2005年12月13日、14日、千葉大学けやき会館において、千葉大学環境リモートセンシング研究センター主催、(社)日本リモートセンシング学会協賛で表記のシンポジウムを開催しました。

シンポジウムは古在千葉大学長の挨拶で始まり、24編の口頭発表と36編のポスター発表で計60編の発表がありました。口頭発表では、衛星データの処理から高次プロダクトの作成、衛星データによる環境解析の一連の流れに対して次の5つの焦点を絞ったセッションとチェアマンを設定し、チェアマンが国内外のその分野でのエキスパートを選び、すべて招待講演で行いました。

グローバルスケールの衛星データ処理 (樋口)
世界の土地利用/土地被覆の地図化(建石)
地球規模の環境変化(鈴木)
地域の環境変動(近藤)
海の氷と気候変動(西尾)

主な発表として、Wataru Takeuchiによる東京大学生産技術研究所における衛星データ処理配布の紹介、Paul SiqueiraによるSARデータによる植生構造計測、Hiroshi WatanabeによるASTERの紹介、Alan Stralherによる土地被覆データの検証に関する最新の手法、Christophe Duhamel、Louisa J.M. Jansenによるヨーロッパにおける土地利用分類の考え方、Ryutaro Tateishiによる地

球地図プロジェクトにおける土地被覆マッピング、Garik Gutmanによる北ユーラシアにおける土地被覆土地利用変化モニタリングプロジェクトの紹介、Jun-ichi Kudohによるロシアにおける山火事の検出解析、Dennis Dyeによる大気変化によるPARへの影響、Katsuo Okamotoによる気候変動と農業土地利用の関係、などがあり、さらに様々な地域の環境研究としてEleonora Runtuwui (インドネシア)、Song Xianfang (中国)、Tomoo Okayasu (モンゴル)、Kurosaki Yasunori (ダストストーム)、Ahmad Al-Hanbali (死海)、海水モニタリングについてLeoni Mitnik、F. Nishioからの発表がありました。

ポスター発表ではリモートセンシングに関する広範な研究が紹介され活発な討議が行われました。外国人招待者が熱心に見ており、NASAのGarik Gutmanも自分のプロジェクトに入って欲しい研究があると話していました。

第1日目の終わりには同じ会館のレストランでの懇親会で楽しい雰囲気での交流が行われました。

外国からの外国人参加者は14名、留学生を含む国内の外国人参加者は35名で外国人参加者の合計は49名、日本人参加者は53名、総計102名の参加者でした。(建石)

平成 17 年度共同利用研究発表会を開催しました。

表記の発表会を国際シンポジウム前日の 12 月 12 日に千葉大学けやき会館において開催し、口頭 10 件、ポスター 13 件の発表を頂きました。参加者は学外が 15 名、学内が 12 名、学内の学生 14 名の総計 41 名でした。

発表は大気・植生・雪氷などの従来の研究フレームに沿ったものが中心でしたが、これまでには

なかった地震に関連する現象を衛星データから探る試み、DMSP（アメリカの衛星）の夜間可視イメージを利用した二酸化炭素排出量推定の試みなどリモートセンシングの新しい分野への応用や、千葉県の藻場データベースのような環境変動モニタリングのための複合視野的な研究があり、いずれも活発な質疑応答が行われました。（高村）

CEReS 環境データベースの紹介（その 1）

CEReS では衛星データをはじめとして様々な環境データベースを WEB を通じて公開しています。その内容を少しずつ紹介していきます。

国土交通省土地分類調査成果図表（近藤）

「国土調査」の一つである土地分類基本調査の成果として、土地の自然条件（地形、表層地質、土壌等）及び土地利用現況に関する縮尺 5 万分の 1 の図幅のデジタル画像（400DPI）を国土交通省の依頼を受けて公開しています。土地条件、地盤情報等の様々な用途が考えられますが、今後、ホームページを通じて情報発信していきますのでご期待ください。

CEReS の地域貢献

一般の方々に広く研究の成果を知っていただくために、CEReS では市民講座や公開講座を支援しています。最近の講座を紹介しましょう。

千葉大学公開講座「戦後 60 年」

11 月 27 日「水と森と人の関わり」（近藤）

近年、手入れの行き届かない人工林は荒れ始め、水源涵養機能あるいは緑のダム機能の低下が指摘されています。その実態に迫るとともに、水と森と人の関係の戦後 60 年間の変化を概観しました。

野田市民セミナー「地球まるごと大研究」

12 月 7 日「宇宙から見た地球」（高村）

人工衛星による地球観測の原理を理解するために、熱赤外画像撮影装置を使った体験学習を試み

グローバルデータセット（建石）

地球環境を理解するためには、地球表層の環境を表す地図が必要です。CEReS では衛星データから作成した下記の地図をホームページを通じて公開しています。

- ・ 20 年全球 4 分 AVHRR NDVI データセット
- ・ アジア 30 秒土地被覆データセット
- ・ グローバル 4 分土地被覆データセット
- ・ 全球土地被覆グランドトゥールースデータベース
- ・ アジア砂漠化地図データ

公開している情報はどなたでもご利用できます。CEReS ホームページへお立ち寄りください。

(URL: <http://www.cr.chiba-u.jp/databases/>)

ました。

12 月 21 日「悲鳴をあげる地球」（近藤）

地球は悲鳴をあげているか、実は人間ではないのか。人口、エネルギー、水・食糧問題に焦点をあてて、その現状について解説を行いました。

名古屋大学地球水循環研究センター公開講演会
12 月 17 日「衛星からみた近年の植生変動とその要因」（近藤）

すでに 30 年の長きにわたり、地球を観測している人工衛星により近年の植生の変動は捉えられているのか。グローバルな視点と地域を見る視点を駆使して、変動の証拠を捉える試みについて説明しました。



千葉大学環境リモートセンシング研究センターニュース

2006 年（平成 18 年）1 月発行

編集発行 国立大学法人千葉大学

環境リモートセンシング研究センター

〒 263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町 1-33

043-290-3856 Fax:043-290-3857

Homepage: <http://www.cr.chiba-u.jp/>